

【小児科】

食べる力

～いつまでも嚙んでいる子、なかなか飲みこまない子～
口腔機能不全症かも

小児科医師：富田 雄一郎



クリニックでは体重が増えない子、体重が増えすぎる子、身長が伸びない子（発育障害といいます）を診療しています。

発育は栄養との関連が強く、特に就学前のお子さん達の発育障害は栄養不足のお子さん達がほとんどです。発育障害のお子さんのご家族にお話しをお伺いしていると、「食事に時間がかかってなかなか量が食べられない」という方が思いのほか多いことに気が付きます。また、乳児健診から、身長が伸びないとご紹介いただく患者さんには「上手くミルクを飲んでくれなかった」、「離乳食の食べが進まなかった」という方もすごく多いです。食事の問題をかかえる発育障害のお子さん達の中に「口腔機能不全症（かむ、のむ力が育っていない子ども達）」が隠れているかもしれません。

今回は口腔機能不全症についてのお話し。

先日昭和大学の弘中先生から「口腔機能不全症」についてご講演をいただく機会がありました。興味深かった点は

- ✓ 口腔機能不全症は将来的に発育障害や窒息事故の原因となる
- ✓ 下記症状がある子は口腔機能不全症の可能性がある
 - 口が開いていることが多い
 - 食事にやたらと時間がかかる
 - いつまでも口の中のものが無くならない
 - 固形物でもむせることが度々ある
 - 飲み込まずに出すことが多い
 - 発音があいまいで聞き取りづらい
- ✓ 高齢者では食品による窒息事故死が交通事故死より多い
- ✓ 現代は口腔機能不全症と思われる子どもが増えている



- ✓ 忙しいから授乳時間を短くしたい、離乳食に時間がかかるから次から次へと口に入れるなどが口腔機能不全症の原因となる
- ✓ 哺乳瓶の吸い口を広げると飲みやすくなるが、将来的に丸飲みの習慣がつきやすい
- ✓ マスクは息が吸いづらく、口呼吸（口が常に開いている）が習慣化しやすい
- ✓ 離乳食の進め方は月齢にこだわらず、咀嚼（かみ方）を確かめながら進める
- ✓ 完了食以降のおやつは円盤形の大き目で噛み切らないと口に入れられないものにする
- ✓ 消費者庁は誤嚥の観点から豆類の摂取は3歳未満は危険とされているが、口腔機能から考えると5歳位まで誤嚥は起こしやすい



発育障害を生じるお子さん達の診療をしていると、いつまでも噛んでいるので朝ごはんは牛乳だけとか、給食の時間に食べ終わらないから量を減らしているとか、摂取カロリーがこれでは少なくなってしまうと思われる患者さんがたくさんいます。ただし、食事に集中できず座っていられなくて食べられないというお子さんは別の状況が考えられます。

小児科で検査をして内科的な病気がなく、口腔機能不全症が疑われる患者さんは歯科医による介入が必要になります。2018年度から口腔機能不全症に対する保健診療が可能になり、八王子にも対応していただける歯科の先生がいらっしゃいます。

歯科医に紹介する前に内科的な病気の検索は必要になりますので、食べ方に問題があり（かむ時間が長い、飲み込まず口から出してしまう、丸飲みしてかまない等）、低身長、やせ、肥満があるお子さんは一度かかりつけ小児科へ相談してみてもいいかがでしょうか。